

第18回歴史探訪の会

奈良佐紀・佐保路周辺の古寺・古墳群を訪ねて

実施日平成 21 年 11 月 18 日 世話人 802 宇田 純夫

今回は、2010年平城宮遷都1300年を迎えることもあり、奈良時代最後の官寺、西大寺、秋篠寺を訪ね、少し足を伸ばして神功皇后陵、成務天皇陵、日葉酢姫陵等の古墳を訪ねました。当日は晴れたり、曇ったりの天気でしたが、寒くも無く25名のグループになりました。OBの宇田と弘津の二名のなら、観光ボランティアガイドとして参加させて頂きました。

コース

近鉄大和西大寺駅～西大寺～叡尊菩薩墓所～秋篠寺～八所御霊神社～神功皇后陵～日葉酢媛命陵～成務天皇陵～称徳天皇陵～西大寺駅

西大寺に行く途中に石落神社に立ち寄りしました。

石落神社は西大寺を復興した叡尊上人が、小彦名命石落神(スクナヒコノミコトシヤクラクジン)より秘薬豊心丹を授けられてからお祭りした。社は室町中期の建物といわれています。



石落神社

西大寺は(765年)孝謙上皇が藤原仲麻呂との戦勝祈願を祈り、金銅四天王像の造詣をもって壮健とする。

又東西に八角七重の大塔の建立を企画し八角の基壇が造られたが、

これを四角の基壇に改められ高座15丈(約46米)の五重塔が東西に建立された。

その後西塔はで、東塔は兵火で消滅した。現在の東塔址の四角の基壇は創建当初のものであり、その周囲の八角の故石は最初に造られた八角基壇跡である。

本堂は江戸時代のもの。特徴は白壁がない・薨がない……



左--- 西大寺本堂 右--- 東塔基壇

普段あまり訪ねることの無い奥の院の興正菩薩叡尊のお墓、五輪塔にも立ち寄りしました。



叡尊の五輪塔

その後、歴史の道を北へ、秋篠寺門前の御霊神社を経て境内へ、今は小さいながら古の東西両塔跡と金堂跡の礎石のあるきれいな苔を見ながら、本堂へ…伎芸天の嫺かで、色気のある魅力的な像を拝み、古墳へと向かいました



八所御霊神社

秋篠寺は奈良時代最後の官寺で、776年49代光仁天皇の勅願により興福寺の僧善珠が開いた寺。秋篠の名の由来----湿地帯を表すアクシノ。

秋篠氏の氏寺。

伎芸天<206m> 頭部<奈良>----脱乾漆造・体部<鎌倉>----寄木造

大自在天の髪際から化生せられた天女で、衆生の吉祥と芸能を主宰し諸技諸芸の祈願を納受したまうと説かれています。





伎芸天(秋篠寺で購入写真からコピー)

伎芸天・帝釈天像・梵天像・救脱菩薩像のは最初天平時代に造願され、後災禍のため御胴体以下を破損し鎌倉時代に至って体部が木彫で補われたものと考えられ、これら四体の像は、いずれも頭部のみ当初のまま乾漆造で体部は寄木造りです。

つぎは佐紀古墳群へ・・・まずは神功皇后陵(四世紀後半・前方後円墳全長 276m・

全国11番目の大きさ)・日葉酢姫陵(五世紀残半・前方後円墳三段築成・竪穴式石室確認・埴輪の始まり・全長 207m)で昼食をとり、成務天皇陵(前期前方後円墳・全長 217m 全国24番目)・高野山陵(称徳天皇陵・前期前方後円墳)で解散しました。

8世紀の天皇陵には前方後円墳はない。



左・・ 神功皇后陵



右日葉酢姫陵へ



成務天皇陵



日葉酢姫陵

ここで御陵には堀がつきものです。小高い陸(オカ)の上に位置する、この堀について内海さんに解説をお願いしました。

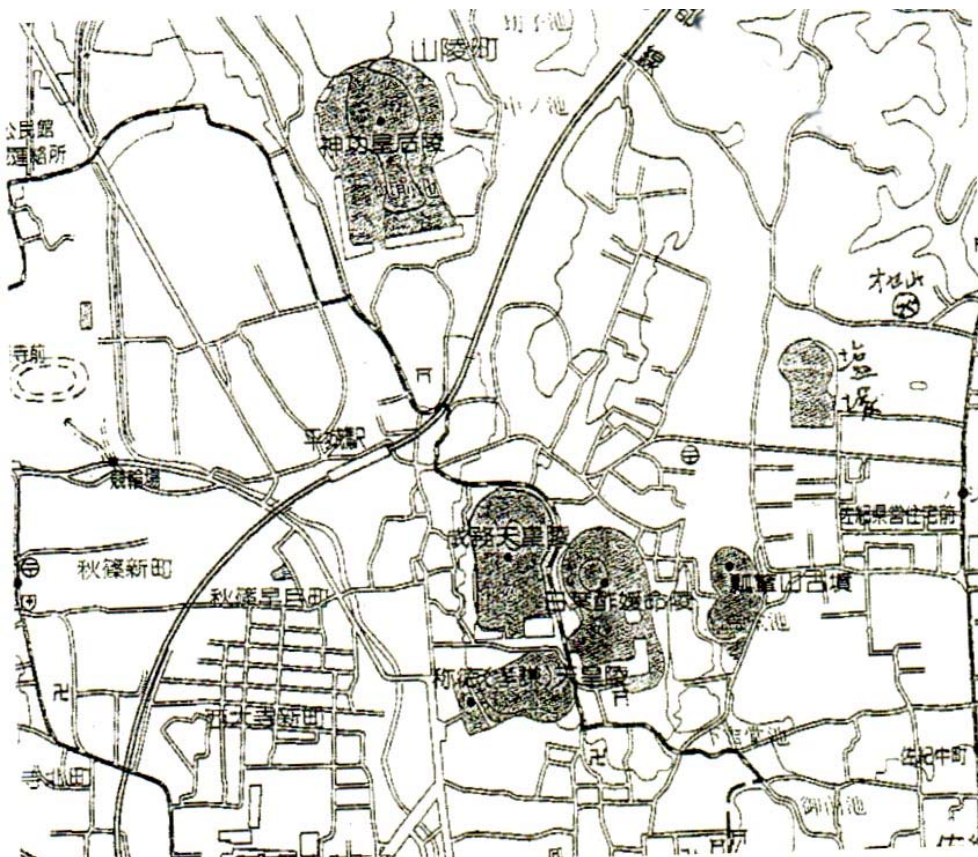
成務天皇陵は尾根づたいの高いところから下っている途中に作られた陵墓です。

傾斜のある所で墓を作るには、傾斜部分を削って平らにし、その上に盛り土をして作ります。

その周りに堀を作りますが、問題は傾斜があるため、単純に作ると水は当然高い方から低い方に流れてしまいます。

これを同じ水面にしようとする、下の堀は非常に深く(高い面に)しなければ不可能です。これは大変です。そのため、堀を高い部分と低い部分に分け、その両方を分断する為の土手を作り水の流れを止めるのです。

この1箇所が、先日高低差のある堀の水面を見てもらった拝所です。



佐紀古墳群地図



集合写真

久しぶりに会った仲間もあり、和やかな一日でした。
案内が役していただいた宇田 純夫さん・広津 栄一さんに厚くお礼申し上げます。